



No. 163

ティークレイク

Tea Break

東京の「絹の道」にアイヌの里？

会員 三宅 正夫

「絹の道」とは、八王子八日町から群馬の生糸を馬に載せて横浜に運ぶ道で、現在東京でその俵を残している処は僅かに八王子市南部の鎌水（ヤリミズ）を中心とする一帯。鎌水から北西方向に道了堂までの道（約1.5キロ）と、鎌水から南東方向に下って町田街道に至る道（約2.5キロ）とである。鎌水の地名は遣水（ヤリミズ）に由来する。この辺りは岩盤層で、山の中腹を先が尖ったもので突いて湧出して来る地下水を、節をぬいた竹で導き瓶に貯え飲料水とした。その水を瓶から流れるようにしたのが遣水。

普通「絹の道」と言うと前者の道了堂に至る道を指し地図にもそのように書いてあり、ハイキングコースになっている。重い生糸の荷を担って鼻息も荒くなった馬やそれを追いたてる馬子の様子を偲ばせる石畳みの坂道に木漏れ陽が差し込み、野趣に富むところもあるが、住宅造成の波に押されて住宅が迫っており、何時までその趣を保てるやら。後者の町田街道に至る道は今やモダン住宅に囲まれた舗装路になって趣は全くない。「小泉家屋敷」（都指定有形民俗文化財、木造平屋建入母屋造、茅葺、田の字形四間取、典型的な民家）を右に見て50m位登ると「鎌水板木の杜緑地」と記した案内板のある約60坪の小緑地に。「板木」（イタギ）はアイヌ語の「伊丹木」に由来するとか。これはきれいな清水の湧き出るところの意で、昔この辺りにアイヌの集落があったという証し。鎌水中学と住宅との間の坂道を登ると左に鎌水公園。頂上に展望台があって四方を見渡せると案内されているが、大嘘。歩道橋を渡ったところに建つ案内板によ

ると、現在の道は昔の道からは右に外れている。7、8年前に訪れた頃は見渡す限りのススキの広々とした原っぱで、狐などが出そうな淋しい処だったが、開発のスピードに驚くばかり。

薄黄色の給水塔から真直ぐに南下し下田街道に至る、本来の「絹の道」を離れ都立小山内裏（オヤマダイリ）公園に入る。相模原の市街の向うに丹沢山系の山々を遠望できる。公園内を広い平坦な道が延々と続いており、別名「戦車道路」とも呼ばれる。去る第2次世界大戦の末期、相模原陸軍兵廠（現在は最近爆発事故のあった米軍補給廠となっている）で作られた戦車の走行テストが行われていたとのこと。この公園の真下が京王線「多摩境駅」。

交通：京王線相模原線「南大沢駅」、橋本行バスで「鎌水中央」バス停車、特別老人ホーム絹の道入口の看板が目印。北側は「絹の道」ハイキングコース、南側は前記後者の道。